

1月定例校園長会にて

皆さん、あけましておめでとうございます。

新しい年の始まりに際し、奈良市の教育が大切にしていることについて改めてお話をしておきたいと思います。

## ■はじめに

### □49,054

この数字「49,054」が何の数か、想像できるでしょうか。「大仏殿再建記」などによると、この数字は、今から320年前の元禄5年（1692年）3月27日に奈良を訪れ、宿泊した人の数です。民家での宿泊なども含めての数でしょうが、当時、奈良の人口は35,000人ほどでしたので、人口を上回る多くの方が奈良に押し寄せ、宿泊したことになります。奈良の1300年の歴史上、最も多くの方が奈良に宿泊した日といわれています。

では、なぜこの日にこれほど多くの方が奈良に集まったのでしょうか。実はこの年の3月8日から4月8日までの1か月間、東大寺の大仏開眼供養が盛大に行われていたのです。

### □公慶上人の大仏復興

聖武天皇によって造られた大仏は、戦火で2度、焼失しています。平安時代に焼け落ちた時は、重源上人によって復興されましたが、1567年に再び戦火で焼け落ちてしまいます。この時は、胴体は復興されましたが、頭部は木に銅板を張り付けた仮のものでした。この大仏は、120年間大仏殿もない雨ざらしの状態でした。再び復興したのは、公慶上人です。公慶上人が13歳で東大寺に出家をした当日は、雨が降っていたそうです。この時に、自分は傘をさしているのに、大仏が雨ざらしであることに心を痛み、



公慶上人

「大仏様が雨に濡れないように、いつか自分の手で大仏殿を復興しよう。」と決心し、大人になってから「一針一草の喜捨」を唱え、大仏復興を始めました。大仏ができるまでの7年間は、横になって寝ることはなかったそうです。

記録では、東大寺の大仏開眼供養にはおよそ20万人が訪れ、転害門から若草山の頂上まで人でいっぱいになり、猿沢池では、餌を投げ入れても鯉が浮かんでこなかったということや近隣の店では1か月間で100両、米の値段で換算すると今のお金にして400万円～600万円の売り上げがあったということがいわれています。

### □観光都市としての奈良

当時奈良には、すでに南都八景という観光名所がありましたが、室町時代の後半から戦乱の世が続く、江戸時代の初めには少し寂れていたそうです。しかし、1692年に大仏が復興したことで再び脚光を浴び、国際文化観光都市としての再スタートがきられました。何かきっかけがあれば、多くの方が奈良に集まります。例えば、平城遷都1300年祭（2010年）では、年間延べ約1,842万人の方々が奈良を訪れました。例年は1,400万人前後ですので、400万人ほど増えたことになります。

奈良市と同じように世界遺産学習を推進している姫路市では、おじいさんやおばあさんの時代から今も変わらず小学校の修学旅行は、すべての学校が奈良を訪れるそうです。また、日本修学旅行協会が調査している「修学旅行行先ランキング」では、小学校、中学校のどちらでも、奈良はベスト3に入っています。

(参考文献 奈良市史 通史三)

## ■世界遺産学習について

### □「残ってきた」のではない。「残してくれた」人たちがいる。

人は、なぜ奈良に集まるのでしょうか。それは、世界遺産を含め千年単位で残されてきた素晴らしいものが、あるからではないでしょうか。

奈良の子どもたちには、『奈良にあるものは、ただ「残ってきた」のではない。それを「残してくれた」人たちがいる。』ということをしつかりと考えてほしいと思います。奈良にあるもの、文化、歴史や伝統を、奈良の人々が大事だと思い、「自分たちの手で、残していかなければいけない。」と思ったからこそ、「残っている」ということを、しっかりと学んでほしいと考えています。今年の世界遺産学習全国サミットでは、このことをテーマに掲げています。

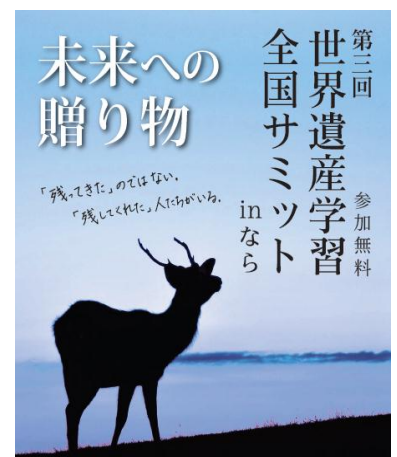
### □「もう、ある。」素晴らしさ

国立博物館の西山厚先生は、「もう、ある。」という言葉で、「奈良には、本当に素晴らしいものが、もう、既にあるのだ。」とよく話されます。映画監督の河瀬直美さんも、「奈良は、昔のものが今も変わらぬ姿で残っている稀有な町だ。」と話されていました。私たちが実生活の中で感じる「もう、ある。」素晴らしさを、しっかりと子どもたちに伝えてください。

大人になってから、改めて「もう、ある。」素晴らしさを実感したという話を紹介します。オーストラリアで仕事をしている、ある校長先生の教え子が、久しぶりに帰国し訪ねてきた時に、「先生、取引先や交渉先で、自分が生まれたところが奈良市で、そこには1300年も前のものが、たくさん残っているという話をすると、相手の方が目を輝かせて話を聞き、自分のことを信用してくれる。僕は、奈良で生まれてよかった。」と話したそうです。歴史のある町で生まれ育ってきたことで相手から尊敬され、歴史ある町を守ってきたところで生まれ育ったことで信用されるというのです。

### □全国サミット

奈良で暮らしていると、改めて奈良の町について考えることはないのですが、1300年の歴史があり、1300年も前のものが残り、それが生活の中で生きづいているという町は、世界中に奈良しかないのです。奈良に住む者は、このことを知り、その素晴らしいものを受け継いでいくことが大切です。今回のサミットでは、韓国の慶州市の小中学生からの発表もありま



す。慶州市では、奈良市と同じように世界遺産学習に取り組んでいて、観光客に母国語だけでなく、相手の国の言葉で世界遺産の解説をしているといいます。今回は、慶州市の観光ガイドのコンテストで「優秀賞」を受賞した3名の子どもたちが慶州市の世界遺産を英語、中国語、そして日本語を使って発表してくれます。奈良市の子どもたちにも、英語、日本語で世界遺産を紹介してほしいと考えています。

## ■最後に

### □子どもたちを大切に作る心

学校は安全・安心な場所でなければならないと考えます。本日配布しました教職員のサービスハンドブック Part.2 の中から〈子どもたちの声〉を紹介します。心にしっかりと留めておいてください。また、人事ヒヤリングでは、各学校園で「どのような子どもを育てたいのか」そのために「どのような取組をしているのか」というビジョンを伝えてください。

#### 〈子どもたちの声〉

- ・私たちの先生は、楽しくてよくほめてくれます。でも、きまりを守らないとしかられます。
- ・わからないことがあれば、放課後でもしっかり教えてくれます。きびしいけれど、いつも私たちのことを考えてくれる先生です。
- ・先生の厳しく暖かい指導で自信が持てるようになりました。

子どもたちは、しっかり私たち教職員の姿を見えています。  
先生が大好きという、こんな子どもたちの純粋な気持ちを裏切ることはできないはずです。  
子どもたちのよい見本となれるよう心掛ける必要があります。

### □絵画の寄贈について

奈良市出身で、一水会会員の画家として奈良の四季折々の姿をテーマとした絵画を制作されている、森下喜文（もりした よしふみ）画伯から、絵画を奈良市に寄贈いただきました。奈良市の美しい姿を描き続けてこられた森下先生の絵画をそれぞれの学校に掲げていただき、子どもたちの情操教育に役立ててもらえればと思います。

森下喜文（よしふみ）画伯  
1916年 奈良市生まれ  
1936年 奈良師範学校卒業（当時）  
1956年 日展初入選  
1964年 日展特選受賞  
1965年 奈良県文化賞受賞

